

新年度を迎えて

信徒代表 坂本規子

姫路城の改修工事が終わり、教会の周辺は以前にも増して賑やかさを取り戻しています。真っ白な姫路城に少し違和感を覚えますが、同じ時期に復活の恵みに与り、私たちの心も真っ白にしてくださいました。新しい姫路城と同じように、私たちも新しい衣を身にまとい新年度を過ごしていきたいと思います。

2年間の評議会議長の役割を皆さんの協力により無事に終えてほっとしている所に、もう一期という司祭からの呼びかけがあり、同じメンバーとベトナムコミュニティからの副議長を迎えてお引き受けすることになりました。この2年間は新しいメンバーが多く、小教区の規約、評議会の仕組みを知ることから始まりました。何となく行事をこなしていくことに必死な毎日で足りないことばかりだったと思います。そんな2年間の働きの中で私はよくモーゼのことを考え祈っていました。モーゼは神からエジプトで400年間奴隷にされていたイスラエル人たちを脱出させるようにと言われた時、自分は力不足だと感じました。彼は以前から話すのが苦手な自分より他の人を遣わしてくださいと、神に懇願していました。私の気持ちも同じでした。もっとふさわしい方がおられると。でもモーゼにアロンを与えて下さったように私にも沢山の助け手を与えて下さいました。必要な時に必要な人を送って下さり随分と助けられました。神様から何かしなさいと言われた時、力のなさに押しつぶされそうになりますが「さあ行くがよい、このわたしがあなたの口と共にあって、あなたの語るべきことを教えよう。」と、モーゼを励まされた神のみことばにわたしも励まされ助けられてきました。神様に感謝です。

さて、ある講座の中で内向きの教会から外に出向いていく教会へという言葉が神父様からよく聞きました。教会の中のことばかりに必死で外にむけて福音を述べ伝えていないのではないのか？という問いかけでしょうか。教皇フランシスコは福音の喜びの中で、書かれています。「神のことばには、神が信じる者たちに呼び起こそうとしている『行け』という原動力がつねに現れています。アブラハムは新しい土地へと出て行くようにという呼びかけを受け入れました。モーゼも『行きなさい。わたしはあなたを遣わす』という神の呼びかけを聞いて、民を約束の地に導きました。神はエレミヤにいます。『わたしがあなたを、だれのところに遣わそうとも、行け』。今日、イエスの命じる『行きなさい』ということばは、教会の宣教のつねに新たにされる現場と挑戦を示しています。皆が、宣教のこの新しい『出発』に招かれています。すべてのキリスト者、またすべての共同体は、主の求めている道を識別しなければなりません。わたしたち皆が、その呼びかけにこたえるよう招かれています。つまり、自分にとって快適な場所から出て行って、福音の光を必要としている隅に追いやられたすべての人に、それを届ける勇気をもつように招かれています」と。

今年は信徒発見 150 年の年でもあります。キリシタン弾圧のなか、信仰を守り続けてきた先人の信仰を私たちは継承し伝えていかなければなりません。家庭の中で、職場で、また学校で私たちがいただいた恵みを自分だけのものにしないで伝えていく努力をしていきたいものです。

新年度、神様が私たちにどんなご計画をもって導いて下さるか楽しみに過ごしていきたいと思えます。どうぞよろしくお祈りします。